

大接戦を制し西益岡が見事優勝！

第88回白石市民体育大会

10月9日、「第88回白石市民体育大会」が白石川緑地陸上競技場で開催されました。24地区から約1,500人が参加した今大会は、史上初の連覇を果たした前年の覇者鷹巣から菱本冬悟さんと板橋唯星さん（ともに白石第二小）が大河ドラマにちなんだ甲冑姿での選手宣誓を行い競技スタート。釣りもの競走や玉入れ、パン食い競争、綱引き、長縄跳び、デカパン競争、200歳リレーなど熱戦を繰り広げました。地区の威信をかけた戦いは、西益岡と鷹巣、柳町が1点差の大接戦となり、見事に西益岡が総合優勝。どの地区も交流と絆を深めていました。



▲掛け声を合わせて長縄跳びを飛ぶ西益岡の子どもたち

全日本ジュニア新体操選手権に出場

キューブ新体操教室の選手が表敬訪問

10月12日、キューブ新体操教室の選手たちが「第34回全日本ジュニア新体操選手権大会」への出場を決め、風間市長を表敬訪問しました。訪れたのは、個人・団体メンバーの選手とコーチの9人。選手の代表が「昨年よりも良い結果を残せるよう頑張ります」と、力強い決意表明をしました。10月13日から16日まで福島市国体記念体育館で「第34回全日本ジュニア新体操選手権大会」が開催。個人・団体ともに昨年より順位を上げるという大健闘でした。中でも遠藤那央斗くん（東中3年）は、個人総合第4位に入る活躍を見せてくれました。



▲全日本ジュニア選手権大会での活躍を誓う選手たち

白石城から交通安全を呼び掛ける

秋の交通安全県民総ぐるみ運動出動式

9月21日から30日までの10日間、秋の交通安全県民総ぐるみ運動が実施され、初日の21日は、白石城天守閣で出動式が行われました。白石警察署員など関係者約90人が参加。白石警察署伊藤正人署長は「白石城で出動式を行ったのは、この運動が市民全員で取り組むものであり、より市民の目に触れる場所で行うことで、交通安全意識の高揚を図ろうとしたものです」と話していました。山谷清交通指導隊長の決意表明の後、参加者全員が「白石警察署甲冑隊」と一緒に力強い関の声をあげました。皆さん、交通安全に心掛けましょう！



▲初めて白石城で行われた出動式。甲冑隊の関の音が響き渡る

水泳を通して交流と友情を深める

姉妹都市親善水泳大会

9月18日、スパッシュランドしろいしで「姉妹都市親善水泳大会2016」を開催しました。この大会には登別市、海老名市、白石市から計47人の小学生水泳選手が参加。本市の上位入賞者は次の通りです（敬称略）。
 ・女子平泳ぎ50m 2位 山口夏穂（白二小5年）
 ・男子バタフライ50m 2位 渡辺快（福岡小6年）
 ・女子バタフライ50m 3位 杉山優羽（白二小5年）
 ・男子背泳ぎ50m 2位 伊藤衣礼（白二小5年）
 ・男子リレー 3位 白石市Aチーム 古谷哉翔（白一小6年）、山田航大（福岡小6年）、渡辺快、伊藤衣礼



▲揃いの黄色いTシャツを着て笑顔の白石チームの選手たち

仇討ち話ゆかりの地で稲刈り

大鷹沢第一区孝子会が八枚田で新米を収穫

9月25日、白石市大鷹沢地区の八枚田で大鷹沢一区孝子会主催による稲刈りが行われました。八枚田は、奥州白石嘶ゆかりの地であり、姉妹をまつた孝子堂前の水田。稲作は同会が文化伝承と景観維持にまちづくり交付金を活用して餅米を作付け。この日の稲刈りには、同会会員のほか大鷹沢小学校の児童や先生など約40人が参加しました。2年目の今年は昨年並の収穫があり、刈り取られた稲は棒掛けし、11月末の収穫祭ではお餅を配付予定。参加した児童は「鎌を使うのは初めてだったのでむずかしかったけど楽しかったです」と話してくれました。



▲刈り取った稲を棒掛けして、孝子堂碑の前で記念撮影

貴重な文化財を後世に継承

當信寺と一條旅館が国の有形文化財に登録

8月1日、本町にある當信寺山門と本堂、鎌先温泉にある一條旅館の木造本館と湯向棟、土蔵が国登録有形文化財に登録され、それぞれ10月3日に一條旅館で、10日に當信寺で、文化庁から贈られた登録証と登録プレートの贈呈式を行いました。山門と本堂は、まちの歴史的な景観づくりに寄与しているという理由での登録。旅館木造本館と湯向棟、土蔵は、優れた大型の木造建造物であるという理由から登録となったもの。同寺の細谷文彦住職と同旅館の一條一平社長は「これからもこの建物を大切に使っていきます」と話していました。



▲登録証を手にする細谷住職（右）と一條社長（左）

自分では気づかなかった！

五輪メダリスト中村礼子水泳教室

9月24日、スパッシュランドしろいしで、アテネオリンピック・北京オリンピックメダリストの中村礼子さんの水泳教室が行われました。この日は、午前小中学生の部、午後高校生・一般の部を開催し、市内外から約60人が参加。自由形と背泳ぎの手足の使い方や泳いでいる時の視線など、中村さんが現役当時から意識していたポイントを伝授されていました。参加者は「手の入水角度や上半身が安定していないことなど、自分では気づかなかったことを教えてもらったので、これからの練習に活かしたいです」と充実した表情で話してくれました。



▲手の入水角度の指導をする中村さん（右奥）

100歳おめでとうございます

菅原あやめさんに松竹梅敬老祝金

9月23日、同月25日に100歳を迎える菅原あやめさんを風間市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝いました。あやめさんは栗原市（旧栗駒町）のご出身。炭坑で働く夫と北海道で結婚後、栗駒に戻り農業をしながら7人の子どもを育てました。現在は孫が10人、ひ孫が5人います。孫の子守がひと段落したころ、お寺で習字を習いかなりの達筆だそうです。この日は、国と県から「老人の日」記念事業として祝詞と銀杯なども贈呈され、あやめさんは「こんなに賞状をもらうと学校の時を思い出すね」と笑顔で話していました。



▲あやめさんの長寿を祝うご家族や施設職員と風間市長